

マニラのスラムに 生きる知恵

盗電・土地・労働の現場から

SURVIVING IN MANILA'S SLUMS: ELECTRICITY, LAND AND LABOUR

日 時

2026年11月6日（金）14:00-15:30

会 場

九州大学 伊都キャンパス パブリック1号館 213共通ゼミ室（対面のみ）
参加費無料 / 申込不要 / 使用言語：日本語

趣 旨

フィリピンをはじめとするグローバルサウスの都市では、貧困層は土地の不法占拠や盗電といった、公式の制度に組み込まれないインフォーマルな手段によって生活の基盤を築いてきた。こうした活動は国家に黙認されることも少なくなかったが、近年は都市開発や治安維持を理由に取り締まりが強化されつつある。マニラ首都圏のスラムで長年フィールドワークを続けてきた宮川慎司氏に、制度の外で生きてきた都市貧困層が取り締まりの強化のなかでどう生活の基盤を築いているのかを伺い、あわせてタンザニア農村の類似の事例（票の売買と汚職）を紹介する。ルールの順守と逸脱のあいだで人びとがどう生き抜いているのかを、地域を超えた視点から考えたい。

講 演

宮川 慎司 氏 東京大学大学院総合文化研究科 国際交流センター 特任助教

専門はフィリピン地域研究。マニラ首都圏の盗電・不法占拠・露天商を対象に、インフォーマルな活動をめぐる制度と規範の変容を研究。著書に『統治と逃避の狭間——ポストポリティカル都市マニラを生きるスラム住民』（近刊）、論文に“Categorising the Urban Poor”（*Journal of Contemporary Asia*, 2024）、「黙認されないインフォーマリティ」（『アジア研究』68-2, 2022）ほか。

進 行

14:00-14:05	開会・趣旨説明 味志 優（九州大学 Q-AOS）
14:05-14:50	講演 宮川 慎司 氏（東京大学）
14:50-15:05	コメント タンザニア農村の事例から 味志 優
15:05-15:30	質疑応答・ディスカッション